

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】令和 2 年 7 月 30 日 (2020.7.30)

【公開番号】特開 2019-72865 (P2019-72865A)

【公開日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2019-018

【出願番号】特願 2017-198788 (P2017-198788)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/26 (2006.01)

D 0 6 M 17/00 (2006.01)

D 0 4 H 3/16 (2006.01)

D 0 4 H 3/007 (2012.01)

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/26

D 0 6 M 17/00 D

D 0 6 M 17/00 L

D 0 4 H 3/16

D 0 4 H 3/007

A 6 1 F 13/49 3 1 2 A

A 6 1 F 13/49 3 1 5 A

A 6 1 F 13/49 3 1 1 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 19 日 (2020.6.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性樹脂の連続繊維から構成された、第 1 面に位置する第 1 繊維層と、前記第 1 面の反対側の第 2 面に位置する第 2 繊維層とを含み、

前記第 1 及び第 2 繊維層間には、複数条の弾性体が収縮可能に取り付けられており、

前記第 1 及び第 2 繊維層には、互いに隣接する前記弾性体間において前記弾性体が延在する方向と交差する方向へ複数のギャザーが形成されており、

前記第 1 及び第 2 繊維層の K E S 法による曲げ剛性の平均値が $0.0035 \sim 0.022 \text{ N} \cdot \text{m}^2 / \text{m} \times 10^{-4}$ であって、かつ、前記ギャザーに対する K E S 法による圧縮荷重下での厚さ寸法は、 $0.22 \sim 1.5 \text{ mm}$ である吸収性物品用伸縮性シート。

【請求項 2】

前記ギャザーに対する圧縮荷重下における、K E S 法における圧縮仕事量が $0.236 \sim 5.0 \text{ N} \cdot \text{m} / \text{m}^2$ 、K E S 法における圧縮回復率は、 $19 \sim 36 \%$ である請求項 1 に記載の伸縮性シート。

【請求項 3】

前記第 1 繊維層はポリエチレン繊維から構成されたспанメルト不織布、前記第 2 繊維層は少なくとも一部にポリオレフィン繊維を含むспанメルト不織布からそれぞれ形成されている請求項 1 又は 2 に記載の伸縮性シート。

【請求項 4】

前記第 1 及び第 2 繊維層は、ポリエチレン繊維から構成されたспанメルト不織布から形成されている請求項 1 又は 2 に記載の伸縮性シート。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 繊維層は、前記連続繊維が融着された複数の融着部分を有し、前記第 1 繊維層における前記融着部分と非融着部分との剛性差よりも、前記第 2 繊維層における前記融着部分と前記非融着部分との剛性差の方が大きい請求項 3 に記載の伸縮性シート。

【請求項 6】

前記第 1 及び第 2 繊維層の質量は、それぞれ、 $10 \sim 30 \text{ g/m}^2$ 、前記第 1 及び第 2 繊維層の見掛け密度は、それぞれ、 $0.04 \sim 0.15 \text{ g/cm}^3$ であって、前記交差する方向へ並ぶ前記複数条の弾性体間のピッチは、 $2.0 \sim 12.0 \text{ mm}$ である請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の伸縮性シート。

【請求項 7】

前記ポリエチレン繊維の繊度は $1.5 \sim 4.0 \text{ d t e x}$ 、前記ポリオレフィン繊維の繊度は $0.9 \sim 2.5 \text{ d t e x}$ である請求項 3 又は 5 に記載の伸縮性シート。

【請求項 8】

前記伸縮性シートは、肌対向面及びその反対側の非肌対向面を有し、前記第 1 面は前記肌対向面、前記第 2 面は前記非肌対向面に対応する請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の伸縮性シート。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の伸縮性シートを使用した吸収性物品。

【請求項 10】

前記吸収性物品は、前後ウエスト域及びクロッチ域を有する使い捨ておむつであって、前記前後ウエスト域を形成するウエスト弾性シート、前記クロッチ域においてレッグ開口縁に沿って配置されるレッグ弾性シート及び前記クロッチ域から前記前後ウエスト域まで延びる防漏カフシートのうちの少なくとも 1 つのシートが前記伸縮性シートから形成されている請求項 9 に記載の吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

第 1 発明に係る吸収性物品用伸縮性シートのさらに他の実施態様の一つにおいて、前記ポリエチレン繊維の繊度は $1.5 \sim 4.0 \text{ d t e x}$ 、前記ポリオレフィン繊維の繊度は $0.9 \sim 2.5 \text{ d t e x}$ である。